

第28回国立国会図書館関西館資料展示を開催します

「ニッポン茶・チャ・CHA」(8/19-9/14)

私たちの生活に欠かせないお茶は、関西館の位置する「けいはんな学研都市」がまたがる京都、大阪、奈良と歴史的に深い関わりがあります。特に近隣の京都府南部は、「お茶の京都」として、宇治茶や茶畑景観等に注目した地域振興が図られています。

第28回関西館資料展示「ニッポン茶・チャ・CHA」では、日本のお茶に関する本と雑誌約70点を、「たどる～お茶の歴史～」、「たしなむ～お茶と文化～」、「そだてる～お茶と産業・科学～」の3つのトピックに沿って紹介します。ほっと一息、心を潤すお茶の世界に浸ってみませんか？

○概要

開催期間：令和3年8月19日(木)～9月14日(火)(日曜は休館)

開催時間：午前9時30分～午後6時

展示資料数：約70点

会場：国立国会図書館関西館 閲覧室(地下1階)

(〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3)

入場：無料・年齢制限なし(18歳未満の方は所定の手続きの上でご覧いただけます。)

問合せ先：国立国会図書館関西館 資料案内(電話：0774-98-1341)

URL：https://www.ndl.go.jp/jp/event/exhibitions/kansai_202108.html

関連講演会：けいはんな学研都市7大学連携「市民公開講座2021」の1講座として、9月3日(金)に、京都先端科学大学バイオ環境学部食農学科特任教授 藤井孝夫氏による講演会「宇治茶のイノベーション ～嗜好の荒野を開拓した人たち～」を開催します。

詳細は、https://www.ndl.go.jp/jp/event/events/kansai_20210903.html

国立国会図書館トップ> イベント・展示会情報> 講演会「宇治茶のイノベーション ～嗜好の荒野を開拓した人たち～」をご覧ください。

※ 開催予定が変更になる場合があります。ご来館前には、最新情報を上記ページなどでご確認ください。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入館時の検温・マスクの着用・手指消毒にご協力ください。

○展示資料例

■「たしなむ～お茶と文化～」から

『大正名器鑑 第1編』高橋義雄 編, 大正名器鑑編纂所, 大正 10-15【422-74】

実業界を引退した高橋義雄（箒庵）は、大正元（1912）年、当時伝来していた茶道具の名品の悉皆調査を思い立ちます。様々な研究の後、大正 6（1917）年からは諸名家に赴き、茶入（茶道に用いる抹茶の容器）と茶碗の実見調査を重ねました。本編 9 編分の編纂が完了したのは、大正時代が幕を閉じる大正 15（1926）年 12 月の事で、収録された茶入は 436 点、茶碗は 439 点にのぼります。展示資料は、高橋が大正時代を丸ごと注ぎ込んだ茶道具研究の集大成です。画像は、足利義政により「初花」と名づけられたと伝わる茶入で、信長や秀吉を経て徳川家に伝わり、重要文化財に指定されています。



※国立国会図書館デジタル
コレクションではモノクロ画像

■「そだてる～お茶と産業・科学～」から

『教草』丹波修治 等著, 溝口月耕 等画, 明治 5-9【特 67-212】

明治 6（1873）年に開催されたウィーン万国博覧会への出展を機に、文部省博物局（現在の東京国立博物館など）が中心となり、日本各地の産物やその製法を調査させ、それぞれ一枚の木版画にまとめたものです。『教草』というタイトルは、寺院や寺子屋で使われた子供向けの教材を示す普通名詞であり、展示資料は、日常よく目にする物の原料や製造過程を子供に教え、産業の振興につなげたいという意図の下で製作されました。お茶については、チャの花や実の構造や、茶摘みから製茶に至るまでの各工程が描かれています。



※国立国会図書館デジタル
コレクションではモノクロ画像

○撮影について

開催期間中（土曜日、日曜日を除く。）は午前 9 時から午後 7 時まで撮影が可能です。ただし、来場者がいる午前 9 時 30 分から午後 6 時の間は、来場者の撮影、周囲に聞こえるような音声を伴う撮影、大人数による撮影等をご遠慮いただく場合があります。なお、照明器具を使用する撮影はできません。撮影をご希望の場合は、来館前にご連絡ください。

○問合せ先

展示内容について：国立国会図書館関西館 資料展示班 中山（電話：0774-98-1382）
取材申込み：国立国会図書館関西館 総務課総務係（電話：0774-98-1225）

※本資料に掲載した画像は当展示会の広報の目的でお渡しすることができます。画像掲載の際には書誌情報及び当館所蔵であることを明記していただきますようお願いいたします。